

「宮内伊予柑」「セミノール」及び「ネーブルオレンジ」に適したCTV弱毒ウイルス							
<p>[要約]カンキツトリステザウイルス（CTV）の弱毒系統M-23A接種「宮内伊予柑」M-15A接種「森田ネーブル」及びM-10接種「セミノール」樹では、強毒ウイルス保毒樹と比べ樹体生育、果実肥大が良好になり収量が多くなるとともに、「宮内伊予柑」ではかいよう性虎斑病の発病が少なくなった。</p>							
三重県農業技術センター・紀南かんきつセンター・かんきつ担当						連絡先	05979-2-0008
部会名	果 樹	専門	作物病害	対象	果樹類	分類	普 及

【背景・ねらい】

県内に導入されている中晩生かんきつ類にカンキツトリステザウイルスによる樹勢衰弱や生産性の低下が見られている。そこで、各種弱毒ウイルスの中からこれらかんきつ類に効果の高いものを選抜する。

【成果の内容・特徴】

- 1 各種弱毒ウイルスの中で、「宮内伊予柑」にはM-23A、「森田ネーブル」にはM-15A、「セミノール」にはM-10の前接種が最も優れた生育及び収量を示した（図1、2）。
- 2 「森田ネーブル」「セミノール」では、1果平均重が強毒樹と比べ弱毒ウイルス接種樹で大きくなる（図3）。
- 3 「宮内伊予柑」では、かいよう性虎斑病の発病度が低くなる（図4）。
- 4 弱毒接種樹と強毒樹で果実の糖度とクエン酸については、3品種ともに差は見られない。

【成果の活用面・留意点】

- 1 CTV弱毒ウイルスの効果を持続させるために、媒介昆虫であるミカンクロアブラムシ、ワタアブラムシの防除を行う。また、できるだけ大規模に植え付けを行う。
- 2 長期の効果の継続性については、今後も調査を進める必要がある。

[具体的データ]

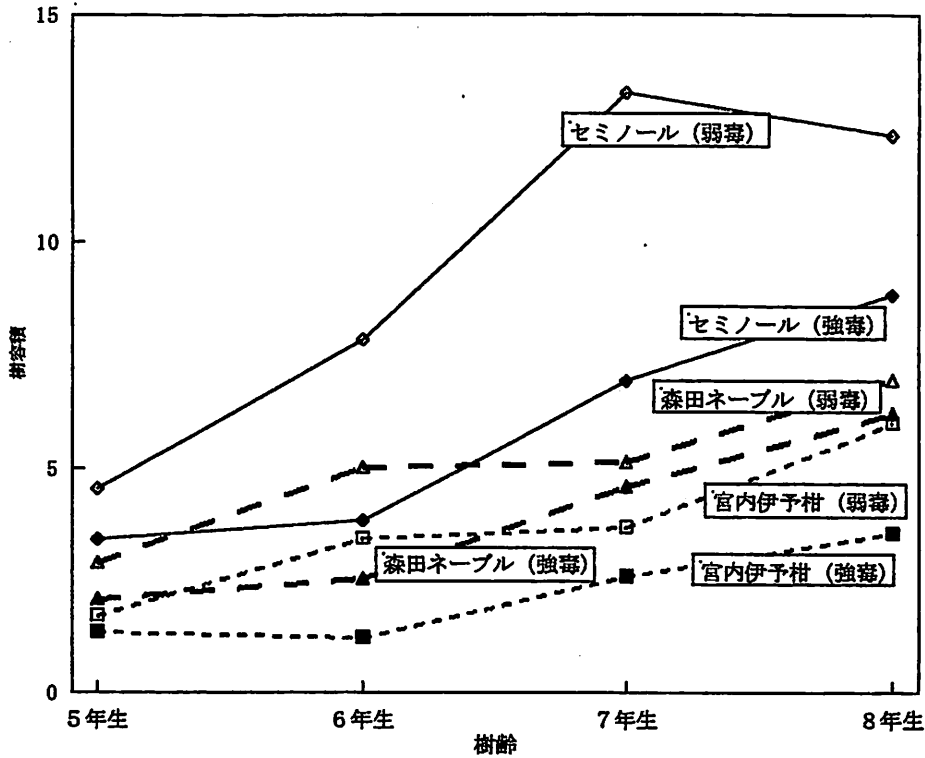


図1. 弱毒ウイルス接種樹と強毒ウイルス接種樹の生育の違い

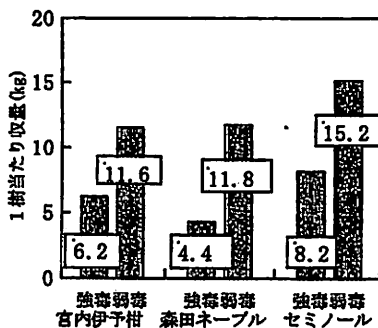


図2. 弱毒ウイルス接種樹と強毒ウイルス接種樹の収量の違い (5年生から8年生の平均)

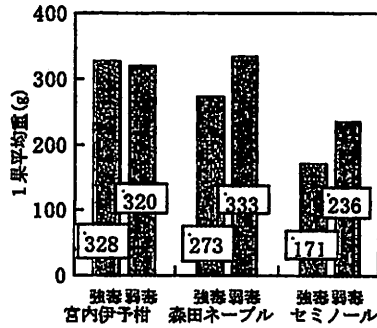


図3. 弱毒ウイルス接種樹と強毒ウイルス接種樹の果実肥大の違い (H3年度からH6年度の平均)

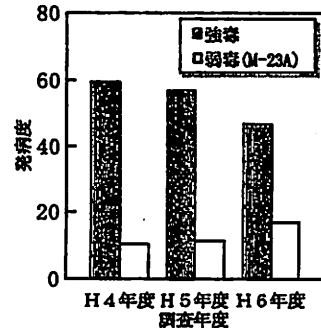


図4. 「宮内伊予柑」におけるかいよう性虎斑病の発生状況

注) 図1～図4で示した弱毒系統は、「宮内伊予柑」がM-23A接種区、「森田ネーブル」がM-15A接種区、「セミノール」がM-10接種区である。強毒は「森田ネーブル」「セミノール」がステムピッチング発生度100、「宮内伊予柑」が43のデータを示した。

[その他]

研究課題名：弱毒ウイルス利用によるカンキツトリステザウイルスの防除

予算区分：県単（共同研究）

研究期間：平成7年度（昭和62～平成8年）

研究担当者：山上 尚史、大野 秀一、家城 洋之（果樹試・興津・病害研）